

ロータリー創立の動機



無秩序な自由競争
事業家につきまとう孤独感と疎外感
いつ敗者になるかという恐怖感
そんな街の中で心から信頼し、語り会
える友人が居たらどんなにすばらしい
ことだろう



初期のロータリー思考



1905 年～ 1912 年
親睦と物質的相互扶助による
事業の発展
会員同士の積極的な
商取引原価提供



互惠主義

ドナルドカーターの指摘

ある時ポールは、入会を薦めたドナルドカーターという弁護士が「仲間だけで仲良くして、自分たちの商売が繁栄する事のみを考えていいのだろうか。会員以外の人々に何らかの利益をもたらす事を考えるべきです。人の尊敬と信頼を受けないような団体は長続きするもではないと、入会を断りました。ポールはその考えを受け、これまでを反省し、地元シカゴのためにも活動することを決め、その後カーターは入会しシカゴロータリの定款を変更しました。



Paul Parcy Harris

お互いの職業を利用し合うことは会員同士の親睦と相互扶助に役立つ
しかし会員は「寛容でおもいやりと友情の精神」にあふれたひとでなければならない！

親睦と事業上の利益の促進「物質的相互扶助から奉仕理念を持ったロータリーへの転換



公衆便所設置

- ・ 市民団体の代表を集め、連合公衆便所建設委員会を設立 二つのトイレを設置。
- ・ シカゴ醸造組合と百貨店組合の妨害を受けて着工まで 2 年がかかる
- ・ 1909 年に市役所と公立図書館の横に二つの公衆便所を設置

職業奉仕とアーサー F.シエルドン



アーサー F.シエルドン (1868~1935)

初期ロータリーの指導的人物。アメリカ・ミシガン州ヴァーノン生まれで、1908 年シカゴ RC 入会。

1950 年のデトロイト国際大会で承認された、**ロータリーの標語「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という標語の原型になる言葉を 1910 年、ロータリー初の大会（シカゴ）で掲げた人物。**

ロータリーの二つのモットー（標語）

① “Service Above Self”

「超我の奉仕」

 サービス第一、自己第二
自己に先立つサービス（by 米山梅吉）

② “One Profits Most Who Serves Best”

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」

 最善のサービスをすれば、
結果として最大の利益が得られる

二つのモットーを一体化して捉えた ロータリーモットーの真意

相手に対するサービスを自己の利益や都合より優先させよう。

利益はサービスの結果である。

相手のために最善のサービスをすれば、その報い（結果）として最大の利益（満足感・幸福感）が得られる。

 ロータリーの「奉仕の理念」
「功利主義」ではなく、「利他主義」

ロータリークラブのロータリアン てどんな人

- ・ 裁量権を持った職業人
- ・ 職業上の高い倫理基準と高潔性を有している人
- ・ 日々奉仕の理念を実践している人

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1) 真実かどうか

→嘘、偽りが無いかどうか

2) みんなに公平か

→すべての取引先に対して公平かどうか、社員にも公平に接しているか

3) 好意と友情を深めるか

→取引先関係者や友人に対し、より良い関係を築けるか

4) みんなのためになるかどうか

→顧客や仕入先、社会全てに有益となるか

(1932 ハーバート J. テイラー)

ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1、個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準持って行動する。
- 2、取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 3、自分の職業スキルを活かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める
- 4、ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける

職業奉仕(Vocational Service)とは何だろう？

職業

生計を立てるための労働や職務のこと



奉仕

国家、社会、目上の者などに利害を考えずにつくすこと



奉仕とボランティアの違い

奉仕とは

奉公の由来。国家や社会のために自分を捨てて尽くすこと。対価が発生しない。



ボランティア

自発的な社会貢献。
組織、団体、学校等から指示されて
行うものではない。



職業奉仕なの、社会奉仕なの、ボランティアなの？

1. 歯科医師が東南アジア地域で子供達の歯の治療を無償で行った
2. 東日本大震災で関東の産廃業者が混乱の中宮城県に行きゴミの収集と処分に協力した
3. 2019 年台風災害により千葉ゴルフ場の鉄柱倒壊が起き多くの民家が損壊した。ゴルフ場経営者と住民が争う中、解体業者フジムラが無償で鉄柱の撤去を行った
4. 児童養護施設の高校生に進路アドバイスと面接指導を行った
5. 中学校、高等学校で職業人としての卓話を行った
6. 日露戦争時“おもてなしの心”で捕虜を厚遇した愛媛県松山市の人達も、太平洋戦争で負けた後はとてもロシア兵墓地のことなど構っておれず、墓は荒れ放題になった。戦後 15 年経ち、松山市が現在の墓地を買い、墓を 1 カ所に集めた時から、市民のボランティアが始まった。昭和 58 年からは勝山中学校の生徒達が月一回の掃除を今日まで続けている。
. 市民はボランティア？生徒達は奉仕？

2016 年 規定審議会 立法案 16-10 奉仕の第二部門を改正する件

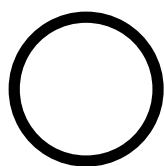
標準ロータリークラブ定款を次のように改定する。

第 6 条 五大奉仕部門

2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、**そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。**



「物質的相互扶助」から
「精神的相互扶助」（＝職業奉仕）へ



「相互扶助」に “Service” の観念が
加わり「一般的なもの・役立ち」という
奉仕理念へ

「相互扶助」の外部への拡張



「奉仕の理念（理想）」

「奉仕の理念」は究極の利他主義へ深化

ロータリーの「奉仕の理念」は、100年前のままではない。数多のロータリアンによる奉仕の実践の積み重ねによって、「奉仕の理念」という人生哲学は、他者のために尽くすことが即、自らの幸せ（喜び）になるという究極の利他主義にまで深化・成長していった。

ロータリーの奉仕理念と実践を、
一般の人に受け入れてもらうために



会員一人一人が自身の
職業で実践！



が必要な時代になっている
のではないかと・・・

今後も奉仕の理念を実践すると共に、職業奉仕において実際に地域社会から、あるいは受益者サイドからの期待に応えられる支援プロジェクトを、ロータリアン個人やクラブで取り組んで行きましょう

職業奉仕委員会